



今月の題字
佐々木 怜君
(山田北小6年)

町のあかし

鯨館で海藻標本としおり作り 海への親しみより一層深く

6月19日、鯨と海の科学館で海藻標本としおり作りが行われました。これは、船越公民館と共催で毎年開かれているもので、今年は船越小学校の4年生32人が参加。この日は浦の浜海岸で拾い集めた海藻を真水できれいに洗い、水を張ったバットに台紙を入れてきれいに形を整える作業を行いました。また、色とりどりの海藻を並べて自分だけのしおり作りを楽しみながら、子供たちは海への親しみをより一層深めていました。この後は5日間かけて乾燥され、完成した作品は子供たちに贈られます。



町内小学校でカキの養殖体験 漁業の楽しさを肌で感じる

町内小学校では、4月から6月にかけてカキの漁業体験を行いました。これは地域の産業と自然のかかわりを理解することを目的に、総合学習の一環として山田南小と山田北小、大沢小、豊間根小、荒川小の5校で実施されたものです。このうち、6月10日には荒川小の3・4年生18人、6月13日には山田南小5年生53人が町水産センターで収穫作業などを行いました。子供たちは収穫されたカキをロープから取り外し、殻に付いた海藻などを取り除く作業を行った後、カキむきに挑戦。思うように開かないカキに悪戦苦闘していましたが、作業終了後には「漁師になりたい」という子も出るなど、この体験を通じ子供たちは漁業の楽しさを肌で感じていました。



山田中生徒会で募金に取り組み 四川被災地への義援金を寄託

山田中学校（小野寺悟校長・生徒520人）では、中国・四川大地震への義援金を町に寄託しました。この義援金は同校生徒会が中心となり、5月12日に発生した同地震の被災地への支援活動として募金を呼び掛けたもので、生徒や教職員から84,841円が集められました。贈呈式は6月12日に行われ、生徒会会計の山崎心さん（3年）＝写真右＝と書記の佐々木碧衣さん（2年）が役場を訪門。「中国で被災した皆さんのために役立ててください」と日赤県支部山田分区長の沼崎喜一町長に募金を手渡しました。これに対し沼崎町長は「皆さんの活動は大変意義のあることで、中国の皆さんに気持ちは必ず伝わるとおもいます」とお礼を述べました。今回寄託された義援金は、日赤本社を通じて被災地に届けられます。

豊間根中の車いす寄付活動 小さな親切実行章贈られる

豊間根中学校（畠山美千枝校長・生徒87人）に「小さな親切」運動県本部（代表・永野勝美岩手銀行会長）から小さな親切実行章が贈られました。これは、同校の生徒らが平成7年から毎年資源回収の収益金で車いすを購入し、これまで34台を町に寄付してきた活動に対して贈られたものです。贈呈式は6月2日に同校で行われ、岩手銀行山田支店の市原義昭支店長から生徒会副会長の豊間根和さん（3年）に実行章が手渡されました。その後全校集会で豊間根さんは、「みんなで協力しこれからも福祉活動を続けていきましょう」と全校生徒に呼び掛けていました。



轟木農地・水・環境保全組合との調印式の様子（上写真）／協定書を交換し沼崎町長と握手を交わす豊間根農地・水・環境保全組合の川村代表

轟木地区 豊間根地区 環境保全組合と町が協定 地域の資源保護に取り組む

6月23日、町と轟木農地・水・環境保全組合（篠澤政夫代表）による農地・水・環境保全向上対策に係る協定の調印式が行われました。同組合は農業者と地域住民が協力し合い農地や農業用水などの資源を守ることを目的として設立されたもので、今回の協定は町がその活動を支援するため締結したものです。同組合では、轟木地区の水田や水路などを活動区域とし、主な活動として農道の補修や草刈り、水路の泥上げなどを計画しています。また、同月16日も豊間根農地・水・環境保全組合（川村良治代表）と町が同様の協定を締結しています。

「オール1先生」宮本延春さん 450人の聴衆を前に熱く講演

町生涯学習推進本部主催の「マナビネットワークinやまだ特別講演会」が6月1日、町中央公民館で開催されました。講師は元教育再生会議委員で愛知県の私立豊川高校教諭の宮本延春さん。「未来の君が待つ場所へ」と題し、会場に詰め掛けた町民450人の聴衆を前に講演しました。小学生のころ受けたいじめにより、高校にも進学せず生きる希望を持てなかった宮本さん。そんな宮本さんが人との出会いをきっかけに努力を重ね、教師になることができた経験から「つらい苦しみはいわば心の成長痛。夢や希望を捨てなければ幸せになれるチャンスはやってくる。今悩んでいる子供たちにも、未来の君が待つ場所へ向かい頑張してほしい」と熱く語りました。



「人との出会いを大切にしてほしい」と話す宮本延春さん（丸写真）

